



～メガネ店だからこそ体現できるお客様の“あんしん”～ ドライビングシミュレーター体験型店舗で社会貢献につなげるパリミキの取り組み



法人名	株式会社パリミキ
設立	2009年1月15日
所在地	東京都港区港南1丁目6番31号
事業内容	眼鏡およびその関連商品を主に取り扱う眼鏡専門店チェーン
従業員数	店舗数：国内店舗 620店（2023年3月31日現在） 従業員数：2,907名（2023年3月31日現在）

■ 株式会社パリミキについて

同社は、「人に合わせる」を理念に掲げ、業界をリードするアイウェア企業です。創業以来、お客様一人ひとりのニーズに応えるため、高品質なメガネを提供され、最新の技術とデザインを駆使した多様なスタイルと快適さを提供されています。店舗も全国に渡り、熟練したスタッフ対応から店舗づくりまで、お客様の視生活を豊かにする付加価値の提供による高い顧客満足度を誇っている。

導入のキッカケ・課題について

■ 自社のコンセプトを体現するツールとしてドライビングシミュレーターを導入

同社は、2022年11月にドライビングシミュレーターの「DB型ModelS（個別対応版）」を視力測定に特化した旗艦店である埼玉県鴻巣店に導入した。導入の背景には、自動車学校と連携していたことや店舗の付近には免許センターがあったことから、同社が掲げる「メガネでトキメキと、あんしんを」の中でも安心に対して、何か社会貢献できないか模索をしていたのがきっかけだ。

その中で近年、教習所の減少や高齢者による交通事故の報道も相次ぎ、安全運転との親和性も高いことから社会貢献できると考え、ドライビングシミュレーターの導入に至っている。視力と運転という新しい視点と、同社ならではのコンセプトから生活の安心を提供する店舗づくりを目指している。ドライビングシミュレーターはその中でも、メインの顧客層でもある高齢者の来店数の向上も見据えた取り組みの1つでもある。こうした取り組みは、実際の店舗に対する口コミにも影響し、旗艦店に設備として設置することで、顧客に与えるインパクトも大きい。

そのため、お客様が店舗に来店する1つの動機につなげる狙いもあり、ドライビングシミュレーターを今までにない店舗体験のコンテンツとして上手に活かされている。

運転シミュレーターの活用

■ 付加価値の高い店舗体験の提供で差別化に成功

同社のドライビングシミュレーターは、視力測定室に設置され、幅広い顧客層にご利用いただいている。メインとなる高齢者のお客様を中心に、ご子息の方などの来店も多い。店舗ではマニュアルも作成され、どの社員でもご案内できるように運用されている。利用されているコースは、当初は特定のコースを設定していたものの、今ではお客様とコミュニケーションを図りながら、その都度好きなコースを選択して利用しているという。

通常ドライビングシミュレーターを利用する際には、運転評価のフィードバックを具体的に実施するケースが多いが、同社は、あくまでお客様の店舗での体験用コンテンツとして活用している。例えばイベントなども定期的に行き、ドライビングシミュレーターのコース走行のベストタイムを競いあう「鴻巣カップ」など、同社ならではのアイデアで集客コンテンツとしても活かされている。

視力測定に特化された鴻巣店では、ドライビングシミュレーター以外にも、一般的な0.25単位の刻みよりもさらに細かい視力測定を可能にする全国でも有数の視力測定器や、3Dでパラメーター化した顔の形状に最適なメガネの販売も可能にしており、高品質なサービスを提供している。さらに、メガネフレームの歪みやネジの緩みといったフィッティングサービスを無料で手掛け、それをキッカケにしたリピート客の創出にもつなげている。

その影響もあり、鴻巣店を例に挙げると1日に多い時では40～50名ほどのお客様が来店するという。店舗内には、ドライビングシミュレーターを案内するためのスタンドPOPなども設置し、お客様に興味・関心を喚起している。その他にも店内には、専用の音楽機器や自由に演奏できるギター、カフェコーナーなども設けられ、一般的なメガネ店では体験できないコンテンツを提供し、他社との差別化につなげている。



運転シミュレーターの活用

■ その場でメガネの効果を実感できるから顧客満足度の向上につながる

このような店舗独自の取り組みにより、移転前の旧店舗と昨年対比では来店数が230%にまで向上する結果につながっている。メガネの購入時に必要な視力の検査にとどまらず、運転能力についても気軽に体験できる機会を提供することで、具体的なお客様の安心に寄与している。

運転シミュレーターの活用

同社のドライビングシミュレーターのプログラムとは別に、簡易な動体視力の検査もできるプログラムも用意されており、お客様の中には、免許更新前の事前準備を目的として来店されることもあるという。視力の衰えは、運転能力と同様に客観的かつ定量的に認知することが難しい領域でもある。そのため、お客様当事者に限らず、視力低下に伴う日頃の運転を心配される親族の方が、同店舗を利用されるケースなどもある。

また、新調したメガネを着用してドライビングシミュレーターを体験することで、従来のメガネよりも見やすくなったなど、その場で効果を実感することも可能になり、お客様の満足度向上にもつながっている。



運転シミュレーターの展望

■ メガネと安全運転という両面からの社会貢献を実現

同社では、ドライビングシミュレーターの開発・製造を行うHonda社とのコラボレーションしたイベントなども積極的に企画し、異業種と連携による事業の拡がりも生まれている。具体的に今年1月には、緑内障の啓発を目的にしたイベントも開催し、3日間で延べ49名のお客様が参加した。ドライビングシミュレーターの活用を皮切りに、交通安全や事業と親和性の高い社会貢献活動を今後も更なる拡大を目指していきたいという。

同社ではこのように、本業の特性を活かしながら、「メガネでトキメキと、あんしんを」というコンセプトを、ドライビングシミュレーターの利活用を通じて体現することで、メガネと安全運転という両面からの社会貢献を実現している。



HondaドライビングシミュレーターDB型ModelA

【お問い合わせ】

本掲載記事へのお問合せは以下でお願いします。

株式会社マネージビジネス
 03-6429-9977（シミュレータ専用ダイヤル）
 シミュレータ製品担当営業部